

STUDENT'S REPORT

高校生の体験取材

「福祉のお仕事」はたくさんの人の笑顔を育み、人と人との繋がりやぬくもりを感じられるお仕事です。奈良県の高校生たちがさまざまな福祉の現場を訪ね、「福祉のお仕事」を実際に体験しました。実際にやってみないとわからない仕事の魅力を知って、貴重な体験をすることができました。



STUDENT'S REPORT 01 障害者福祉施設編

奈良県立大宇陀高等学校の3年生、澤村優依さんが、奈良市内にある「オープンスペースAYUMI」を訪ねる。

「将来、福祉・介護の道に進みたい」という夢を持つ彼女は、何事にも前向きな姿勢で取り組み、利用者の皆さんとのコミュニケーションを取る時はいつも笑顔。終始和やかな雰囲気の中で、さまざまな作業やレクリエーションを楽しみました。

PICK UP! 無邪気な笑顔で、施設のアイドルに！福祉の道をめざす高校生の職場体験に密着



9:00 出勤する利用者さんの受け入れ&朝の挨拶



10:00 作業開始 (オリジナル商品「油(ゆ)取り生活」(1パックで約100cc~130ccの油を吸い取る優れたモノ)の制作)

牛乳パックからつくった再生紙と一緒に袋詰め。利用者さんが描く「パッケージのイラスト」がかわいい!



12:00 食堂で昼食 みんなで会話をしながらランチ



14:00 「ふきのとう」班で創作&音楽活動

まずは、かき氷づくり。利用者さんがつくった特製の「梅シロップ」おいしい! 次は、全員で一緒に手足を動かす「音楽活動」の時間。楽しい動きでみんな笑顔になりました。



15:45 帰りの会 最後の挨拶「温かく迎えてくださり、ありがとうございました。みなさんと楽しい時間を過ごさせて、うれしかったです!」



QUESTIONS & ANSWERS 答える人▶▶▶ **山本 靖雄さん** (入所10年目) **なぜ障害者を支援する仕事を選んだのですか?** 自分に障害がある親戚がいて、幼い頃からよく遊んでいました。その事もきっかけとなり福祉に興味を持つようになりました。また、介護の専門学校での「障害者福祉施設の実習」で、利用者さんが職員さんと楽しく過ごす姿が「すごく良いな」と思って、この道に進むことを決めました。

STAFF INTERVIEW **荘司 倫子さん** (入所2年目) 以前、保育の仕事をしていて、障害がある子どもさんと関わる機会がありました。その時の関わりで、少しずつ心を開いてくれたのが、すごくうれしかったです。その経験が今の仕事に就きたいと思ったきっかけになりました。利用者さんが送るサインに気づくことができ、笑顔を見せてくれた時に、すごく喜びを感じます。

人と人との関係の中にあるのが「障害=生きにくさ」 **久永 洋さん** オープンスペースAYUMI 施設長 (入所10年目) 通常は、「障害を持っている」という言い方をしますが、私たちの場合は、「障害がある」という言い方をします。それは、利用者さんと私たちの間に「障害=生きにくさ」があるだけで、「持っている」ものではなく、私たちの間に「ある」という考えに基づいています。この「ある」ものを理解し、受容していくことが大切だと感じています。これらの考え方を大切に、今後、様々な世代の方にこの仕事について知ってもらえる機会を数多くつくっていきたくと考えています。

STUDENT IMPRESSIONS **澤村 優依さん** 奈良県立大宇陀高等学校 看護科 ライフサイエンスコース・3年 施設に来る前は、利用者さんたちとうまく接することができるか正直不安でした。でも、実際に来てみると、利用者さんが壁をつくらず接してくれたので、みなさんの輪の中に自然に入ることができました。この2日間の体験で、「福祉の道に進みたい」という思いが強くなりました。

STUDENT'S REPORT 02 保育所編

保育所のお仕事っていったいどんなことをするのか? 奈良県立磯城野高等学校の生徒たちが天理市にある「ひまわり保育園」を訪れ、保育のお仕事を体験レポート!!

生徒たちが交流会を行うため、「ひまわり保育園」を訪れました。人懐っこくて元気な子どもたちは、すぐに高校生たちと打ち解けた様子。レクリエーションで一緒に体操をしたり、歌ったりして、みんなで楽しい一日を過ごしました。

STAFF INTERVIEW



原 あやめさん (入職4年目) 羽田野 知世さん (入職5年目)

交流会の感想で高校生に「楽しかった」と言ってもらえてとてもうれしかったです。福祉の仕事は大変なイメージがあるかもしれませんが、現場で実際に子どもたちと接する楽しさはかけがえのないものです。こうした体験を通して、子どもたちと一緒に成長する喜びを実感してもらえたらと思います。

子どもたちが一人ひとりいきいきと育っていくことを願って

三浦 美穂子さん (ひまわり保育園 園長)

子どもたちが豊かな自然の中でお友だちとふれあひながら、のびのびと元気に育ってくれば、それに勝る喜びはないです。子どもたちとともに時間を過ごすことで、大人も一緒に成長していけるこの仕事は、子どもが好きなお仕事にはぴったりの仕事だと思っています。「自分もこうやって周囲から愛されて育ってきたんだな」ということを仕事を通して感じてもらえたらうれしいです。



STUDENT IMPRESSIONS

鳥元 俊希くん 奈良県立磯城野高等学校 ヒューマンライフ科・3年 子どもたちはみんなとても元気で、人懐っこくてかわいかったです。特に僕の言うことを聞きながら、一生懸命真似をして動かそうとしている姿が印象的でした。若林先生にインタビューさせていただいて、保育士の仕事は子どもたちの成長が間近に見られる、とてもやりがいのある職業だと思いました。



QUESTIONS & ANSWERS

答える人▶▶▶ **若林 かほりさん** (入職12年目)



保育士をめざすうえで、努力したことはなんですか? 実は学生時代はピアノが苦手な手っ取り遅いので、最初はこの仕事が終わるまで不安でした。でも、子どもと関わる仕事をした経験が自信になり、保育士をめざすことを諦めませんでした。その気持ちを原動力にして、ピアノも猛練習して、弾けるようになりました。

この仕事をしていてよかったと感じた時はどんな時ですか? 0歳児から保育をしているので、子どもが初めて立ち上がり、オムツが外れらたといった成長を感じた時が一番うれしいですね。そうした子どもたちの成長を保護者の方と分かち合うことができるのは、この仕事ならではの魅力だと思います。

この仕事をしていてつらいと思ったことはありますか? さまざまな発達段階の子どもたちがいるので、それぞれにどう向き合っていくか悩んだりすることはあります。つらいと感じたことはないです。一人ひとりに合わせた保育をするのは大変なこともありますが、「子どもたちの成長が大好き」という気持ちの方がそれを上回っています。



社会福祉法人しのめ会 ひまわり保育園 本園:奈良県天理市杉本町若田174-2 TEL.0743-63-2137 FAX.0743-63-2188

STUDENT'S REPORT 03 高齢者福祉施設編

県内で唯一「福祉科」を設置する奈良県立榛生昇陽高等学校。その1年生が、桜井市にある「きび秀華苑」を訪れ、「福祉・介護の現場」を体験!!

計5日間の介護実習の中で、この仕事の大変さだけでなく、やりがいや楽しさを感じた様子。一緒に作るものづくり作業での会話や、移動する際の誘導もいつの間にかスムーズに。最後には、高校生と利用者さんたちはお別れするのが寂しくなるくらい、仲良しになりました。

STAFF INTERVIEW



石崎 親男さん きび秀華苑デイサービスセンター 施設長 誰から感謝の言葉や笑顔をもたらせることに、生きがいや喜びを感じられる人は、福祉や介護の仕事に向いていると思います。この仕事にふれてもらえる機会があれば、「この道に進みたい」と思う人が増えるんじゃないかと、イベントなどでPR活動も積極的に進めていく予定です。



社会福祉法人 清光会「きび秀華苑」デイサービスセンター 奈良県桜井市大字吉備542-2 TEL.0744-44-2601

QUESTIONS & ANSWERS

答える人▶▶▶ **橋本 優子さん** 生活指導員 (入職4年目)



なぜ、この仕事に就こうと思ったのですか? 短大卒業後は、一般企業のOLとして働いていました。結婚・出産を経て、子どもの手が離れた時に、「お世話好きな性格」を活かした仕事をしたいと思い、職探しをした中で目に入ってきたのが、この仕事でした。それから、一生懸命勉強をして、「介護ヘルパー」の資格を取得してから、この世界に飛び込みました。

職員さんが高校生に「逆」取材!!

奈良県唯一の高校の「福祉科」を選んだのはなぜですか? 内海くん「小学生の頃、福祉施設に行った時に、介護職員さんが利用者さんを助けていた姿を見て、「カッコいいな」と思いました。それをずっと覚えていたのが、福祉科のある学校を選びました。 松岡さん「祖母がヘルパーの仕事をしていて、中学校の時に働く姿を見た時に、「私もこうなりたい」と思いました。祖母は今60代ですが、現役で仕事をしているので、尊敬しています。



内海 優太くん 奈良県立榛生昇陽高等学校 福祉科・1年



松岡 愛さん 奈良県立榛生昇陽高等学校 福祉科・1年



この仕事をして、やりがいを感じるのはどんな時ですか? 約10年間「訪問介護」の仕事をしていて、その時は「来た来てな」と言ってもらえて、「この人に必要とされている」と感じた時に喜びを感じました。今は、利用者さんと施設を結びつける仕事をしています。この仕事は、「人と人が関わる仕事」なので、みんなが笑顔になる瞬間に立ち会えた時はとてもうれしいです。

初めて「現場」に来て、学んだことはありますか? 内海くん「利用者さんとコミュニケーションをとることの難しさを知りました。職員さんが、部屋の外まで聞こえるくらい大きな声を出しながら仕事をしているのを見て、自分も見習いたいと思いました。実習に来たことで、この仕事に就きたいという気持ちも強くなりました。 松岡さん「今回の実習では、職員さんがいつも笑顔でいることがとても印象に残りました。また、いろいろな話を聞ける中で、利用者さんの体験や悩みを把握していくのもすごいと思いました。この経験を生かして、これから学校での勉強も頑張っていきたいです。」